

栃の木からの手紙

2019年 11月号



まだ一般のとうや芋の選別作業をしている9月下旬、気の早い雪虫を見掛ける。10月に入り自然農法の芋の選別が始まり1週間程で終了。長かった2ヶ月に及ぶ芋の収穫・選別・箱詰め作業が終わった。自然農法の畑では、僅かだがビーツが収穫を待っている。2反程の黒大豆は、既に葉を落とし莢が目立っている。一般のビーツの収穫を始める1週間程の間でこれらの収穫を終わらせ、ビーツの収穫作業が始まった。そして11月初め無事にビーツの収穫も終わり、収穫して積んである黒大豆の脱穀を待つ状態になっている。

1日： 一般ビーツ収穫完了

6日： 黒大豆 脱穀

8日： 立冬

12日： 満月 旧 10月 16日

22日： 小雪

27日： 新月 旧 11月 1日

11月 霜 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

昨年調子の悪かった「豆刈り機」。今年は、7月の時間のある時に機械を点検。自分の想像以外に、Vベルト2本の摩耗に気が付き交換。本番は、順調に刈取り作業が出来ましたが、作業時期が遅かった為か、畑に大豆が結構な量落ちています。



収穫量は、ニオ積みクロが9個出来て、昨年より4個程多くなっています。作業時間は、二人で一日半掛かっています。



11月6日、会報の完成を先延ばしにして黒大豆を脱穀しました。10時頃から始めた作業。直ぐにベルトが切れて購入に走り、12時に作業再開。16時を過ぎて薄暗くなる頃に作業終了。後片付けをしているうちに真っ暗になり、「秋の陽は、つるべ落とし」といいますが、毎日の様に、それを実感する晩秋の夕暮れの農作業。

今年の農作業の片付け、来年に向けての畑の準備等が済んでから脱穀した黒大豆の選別作業が始まります。